

ミニ懇談会報告書

申込者：大山口小学校区支部会

テーマ：まちづくり協議会、避難所運営についてほか

日 時：平成28年11月20日（日） 午後2時～午後3時45分

場 所：大松自治会集会所

出席者：大山口小学校区支部会 会長ほか16名

市側：伊澤市長 伊藤市民経済部長 秘書広報課 課長ほか2名

進行：大山口小学校区支部会

挨拶：市長

ミニ懇談会趣旨説明：秘書広報課長

【趣旨説明】 秘書広報課長

本日はミニ懇談会を申し込みいただきありがとうございます。

ミニ懇談会は、少人数の皆様と市長が膝を交えて懇談させていただき、今後の市政運営の参考にさせていただこうというものです。あくまでも懇談会ということですので、この場でただちに課題の解決を図るとか市の方針を決定する、というような場ではないと思っていますので、よろしく願いいたします。そういった課題などが出た場合には、私ども秘書広報課担当の方でお伺いして後ほど回答などできるものは、回答させていただきます。

時間ですが、概ね1時間半くらいを目安に終了させていただきたいと思います。

また、皆様が等しくお話しできるような進行をお願いできればと思っていますので、よろしく願いいたします。

【市長あいさつ】

皆さん、こんにちは。市長の伊澤史夫です。本日は、大山口小学校支部からミニ懇談会に申し込みいただきありがとうございます。皆様方には、日ごろから市政の推進に多大なるご尽力を賜っておりますことを、厚く御礼を申し上げます。

昨年のタウンミーティングでもお話ししたと思いますが、大山口小学校というこの地域を見ますと、例えば大山口1丁目、2丁目、大松のように、早い人では昭和54年以前から入居された方、そしてベリーフィールド、西白井1丁目から2丁目、3丁目のように、平成14年のまち開きから入居された方もいるということで、年代層が若い層から高齢者の層までバランスがよい区域でもあります。小学生、中学生も、主にベリーフィールドの方でかなり増えてきて、大山口小学校はかなり大人数ということで、この少子化の中では、市にとっても活気のある地域だと思っています。一方で、一部地域では、高齢化も進んでいるという、白井市の中でも特色のある地域と感じています。

今、この白井市も含めて少子高齢化、そして国では人口減少が始まっていますが、市では、4年後の平成32年をピークに人口が減少するだろうと予測をしています。そのような中で、市民のニーズもいろいろな方々がいらっしゃって、複雑多様化してくるところで、白井市の行政だけではなかなか全てのまちづくりがカバーできないというのも実情です。皆さんと一緒に自助、共助、公助という精神のもとで、地域の方々、そして市民の方々、いろいろなボランティアやサークルの方が一緒になって、将来、子や孫のために残せるまちの礎をつくれたらなと思っています。このミニ懇談会を契機に、さらに皆様と意見交換や理解し合いながら、と思っていますので、今日はよろしく願いします。

【進行】：会長

ざっくばらんに意見交換したいと思いますが、1 時間半ということで、まず私から、以前に学校関係で出していた大山口中学校の自転車通学の問題で、要望に対する警察からの返答が、マクドナルドの前のところの境界線を少し変えるということで、それはすぐに変更されたようです。

これに対して、学校側はどうですか。

大山口中学校PTA

私も 23 年から大山口小PTA会長、今は大山口中のPTA会長をやっていますが、本来であれば、押しボタン信号の希望や横断歩道の設置などいろいろな案はありました。今、あのような形にさせていただきましたが、保護者からすると、不満が残るとするのは否めないかなと思っています。

【進行】：会長

まず第一弾として、中学生の動きに関してはよろしいのではないかなと思っていますが、それ以外の道路行政など、そういったところに少し踏み込んでいった方がいいのかなと思います。富士の方から風間街道に抜ける道がないのです。例えばセブンイレブンの交差点、T字路からずっと抜ける道がないです。抜ける道はやっとマックの前まで来て、細い道があるというだけです。これは以前環境建設部長とも話をしたところで、物件を建てるということに対して、県の指導だけということで、市の方からは、全く関知することはなかったと伺っていますが、これが去年の4月から変更になっていて、そういった点では今後の動きを見るとよろしいかなと。市が関与して、いろいろ条件をつけていくという形になるかと思いますが、今後、富士の方から来る人の安全を考えると、風間街道の片一方は鎌ヶ谷市の管轄で、鎌ヶ谷市としては歩道がないところがあるわけで、これに関して対応はいろいろとされていると思いますが、今後とも、お話を進めていただきたいと思います。

あと、市民安全課にお願いをしていたAEDの設置をコンビニにお願いする件ですが、この件に関しては船橋市を先頭に、今松戸市も変わってきたというところで、もう四、五年前から言っていますが、なかなか変わらないところで、早く進まないとなかなか難しいのではないかなということ。25年11月に要望を出しまして、25年11月29日に市長から返答をいただき、市民安全課が鋭意努力するということが書かれていますが、ほぼ余り進んでいない、ざっくばらんに見てそう感じています。他の市が出来ることがなぜ出来ないのかというところで、予算の問題などいろいろあるのですが、やるべきことをやっていくという部分は、重要ではないかと私は思っていますが、この点はどうか。

市長

通学路とAEDの2点のお話がありました。

通学路については、前回からの懸案ということで、大松の交差点について、去年の要望は交差点の改修と歩行者専用の信号機設置ということでした。それ自体は警察では難しいということで、それに

代わって、もう少し北側に横断歩道を作って、自転車をそこに流そうということで警察に行きまして、警察の方からは、当面今の形で大松交差点の改修で様子を見て、その後横断歩道についても、検討していきたいということでした。まだ第1段階に入ったところで、全体の通学路については、PTAと学校と市が一緒になって、全区域、全小中学校の通学路を点検しています。危険箇所については、一緒に解決に向けて、警察も含めて努力していて、すぐ出来るもの、例えば、交差点の待機線を少し変えるといったことはすぐ出来ますが、用地の幅幅や時間帯を設けるといったものは、かなり手続きが要るもので、それについては時間がかかるもの、あるいは不可能なものということで分類して、PTAの方々と協議をされていて、出来ることからやっていくと。

そして、次に市民の安心・安全のためのAEDについては、前回もお話させていただきましたが、一昨年、株式会社セブンイレブンの市内のコンビニの店長さんに集まっていただいて、見守りネットワークの協定を結んでいます。そのとき、私の方から、ぜひAEDの設置をお願いしたいと。今、学校などにはあるのですが、学校では、学校が終わってから、また土日は中に入れませんので、やはりコンビニが一番いいということで、先ほどお話があったように先進の自治体ではやっています。セブンイレブンの方からは、設置しただけでは店員が使用できないので、店員の講習が必要だと。その講習をやるにも、1店舗当たり店員の人数がかなりいて、その全員が講習するという手間があるので、そういうところも考慮して欲しいということでした。協議は続けていて、予算の問題もありますので、今の段階では、出来れば早いうちに実現したいという回答になるのですが、セブンイレブンとは話としてかなり進んでいます。

大山口小学校区支部会

今日、我々の自治会の役員会でも話が出て、AEDがどこにあるかわからない。ホームページに、公共の場所で設置している場所は幾つか出ていますが、それぐらい皆に伝わっていないということが一つ、あと、私の住んでいる西白井1丁目の近くにAEDが1個もありません。だから、セブンイレブンなど、コンビニが近くにあると、非常に便利であるということが出ましたので、ぜひ設置を進めていただきたい。使用するのには時間との勝負だと思うので、余り遠いところにあっても意味がないと思います。

先ほど、セブンイレブン側から講習が必要だということがあったということですが、あれは基本的に音声案内が出て、そのとおりにやれば誰でも操作が出来るということだと思うので、講習をやった方がいいとは思いますが、必ず全員にやる必要はあるのかなと思います。その辺も含めてまとめていただいて、出来るだけ早めに設置していただけたらうれしいです。

大山口小学校区支部会

現実には、倒れた方をコンビニに連れていくわけではなく、貸し出しするだけですよね。

市長

そういうときもあるし、コンビニで倒れたときには、店員さんが対応するという。あと、使える状態にしておかないといけないということで、メンテナンスが常に必要です。そういうこともあるので、そんなに細かいところまでは必要ないと思いますが、メンテナンスと、それから一番問題なのは、ペースメーカーが入っていたり、ネックレスをしていたり、そういうことのチェックができるような知識が必要なので、そういうところさえマスターしてしまえば、そんなに難しいことではないということだと思います。

大山口小学校区支部会

通学路の関係で、少し停車できるように広げましたが、基本的な解決には全くなっていない。それは、大松から行って右折する車からすると、自転車がどんどん来ますから、用が足りていないということ。これは運転手に少し辛抱してもらえば済む話かもしれませんが、解決されていない。それと、中学生が南側の歩行路を走ってきて、そこで右折するのです。ほとんどブレーキをかけずに突っ込んでくる。過去、警察に届けるほどの事故でもないのですが、接触しそうになって、転倒してけがをしたということも間々あります。もちろん大松の人たちがほとんどなので、その人たちがけがをする被害者になり得ると同時に、加害者の中学生が、それこそ人身事故になりますと大変な賠償の話になりかねない。距離が開いていないのであれば変えればいい話なので、信号機を一つつける、お金はもちろんかかるわけですが、通学路の確保ということからいくと、警察がなぜ否定するのか、全く理解できない。通常的信号を作ることよりも、もっと重要な、生徒が加害者になり得るといった条件のまま放置するというのはどうなのか。通学路の確保は、教育委員会としての重要なテーマだと思いますので、お金がないのであれば、順番さえつければつくはずですが、本当に中学生が加害者になって、賠償問題になると大変な話になってくるわけですから、なぜ、市としてそれで仕方ないと思っておられるのか、全く理解できない。一度交差点に立たれたらわかりますが、先頭を走ってくる子はほとんどブレーキをかけずに右折します。そこに歩行者でもいれば、接触事故、転倒事故ということになりかねないということで、ぜひ、重要な案件だと認識してください。お金の問題であれば、優先度の問題ですから、県として信号機設置費用の予算が全くないというわけではないと思いますので、そこはぜひ、頑張ってください。

大山口小学校区支部会

いろいろな意見が出るとと思いますが、信号機の問題については、どうするのかという市の案を出して欲しい。PTAと話し合っ、ここに通学路をこう直すということがいいのかどうなのか、もう1回話を戻して、元に戻ってやった方がいいのではないかと。いろいろ皆さんの意見はあると思います。だから、これがいいということではなくて、原点に帰って、今言ったような事柄に対応して欲しいと思います。子ども達が安全になるようにしてもらえればいいので、どのようにしたら本当にいいの

か。警察が条件をいろいろ出しているのですが、本当にそれが正しいのかというところもあろうかと思ひます。今の信号機をいろいろ見ていると、いろいろな条件があるので、どれが正しいということではなくて、どうしたらいいのかと。難しい交差点もたくさんあるので、それをどう変えればいいのかということで、道路課や学校、教育委員会というところと相談しながらやりたいと思ひますので、よろしくお願ひします。

AEDの問題に関しては、市が持っている32個のAEDがあるわけですが、これを設置しているところを地図上に落とし込んでいないと思ひます。市民安全課でそういう取り組みをしていない。そうしていないにもかかわらず、どうしたいのかという意思が全く感じられないのです。だから、その辺をもう少し真剣になっていかないと、せつかく早い時期に提案しても、船橋に先を越される、今年はまだ松戸市がやり始めるということで、本当の意味で難しいのではないかと。市が、本当に真剣に考へているのかと聞いてみたいと思ひます。だから、市民経済部長がどう答えるのかわかりませんが、大事なことは、どうしたいのかという意識の問題ではないかと思ひます。当然、地域によって、全くないところがある。これも地図に落とし込んでいけばわかることです。だから落とし込んでいないとしか言いようがない。

市長

AEDについては、先ほど言ったように、市ではコンビニを中心に置きたいということは変わりません。ですから、あとは条件です。

【進行】：会長

一つ条件で願ひしたいのは、先ほどの話でメンテナンスという話が出ましたが、例えば、AED業者からはリースをするべきで、我々がそれを購入してメンテナンスするということは、不可能だと思ひます。だから、条件としては、リースをしてメンテナンスするという方がいいと思ひます。そうでないと、常に安全の面で、メンテナンスが出来ていないところがあると困るし、先ほどいろいろ話していましたが、これに関しては後から条件をいろいろつけた方がいいと思ひます。コンビニが出来ないのに、何で船橋や松戸はやれたのか、ということもあるわけです。だから、これはやろうと思えば出来るので、自治会も毎年やっているところもあれば、やっていないところもあるだろうと思ひます。お互いに同じ方向を向いてやっていけば出来るのではないかと思ひていますが、いかがですか。

市民経済部長

AEDについては、予算の関係ではっきり申し上げられませんが、かなり前向きに担当で検討させてもらっています。近隣市についても、今度柏市が始めた例があり、船橋市の例も以前研究しましたので、どのように始めたのかを実際調査して、担当では早急に実施するような体制を組んでいるところです。

大山口小学校区支部会

予算がないからと言うのではなくて、地図に落とし込んでいけば、この場所は不要だろうというところはあると思う。だから、その不要なものをどこかに移すというようなことも考えられると思う。小学校、中学校は全部買い取りで、本当に使えるのかどうか心配です。無駄にコストを削減しようとする余りにそうなるのではないかと思います。

大山口小学校区支部会

買い取ったものの定期的なメンテナンスはどうしているのですか。

市民経済部長

別途に委託料を計上していて、いざ使うときに使えなかったら大変なことになってしまいますので、確か年に1回ずつチェックしています。

市民

多分メンテナンスも含めてやってもらい、場所だけ提供するようにすれば、わざわざ来て使うのではなくて、持っていくわけですから、コンビニも敷居は下がるような気がします。

市民経済部長

それも含めて、担当課で検討させてもらっています。

【進行】：会長

ちょっと時間が掛かりすぎている。この件については、担当課から返答をお願いします。

大山口小学校区支部会

11/15 発行の議会だよりの中で、「健康・安全・安心施策をすすめます」ということが打ち出されていて、その3番目に「甲状腺エコー検査費用の一部助成をします」という項目があります。記事の中の「経緯」の欄に「市長の諸般の報告より」とあり、これは桜台の学童保育所で高線量の場所があったということで、市議会議員全員からの要望書の中で、市内の他に高線量の場所がないのか、について市に要請されて、市の環境課では学校、保育所などの公共の場所は再度調査をされたとのこと。私も団地で原発事故があった翌年に個人的に借りて測ったところが高い場所でした。今回の件で心配になって10月に自治会で借りて測ったところ、グランピアの中でも0.3という高い場所が何カ所かあって、それについて団地としてどうするか、これから話し合うわけですが、ついでに大松側とランドロームの間の中木戸上橋は、ふわふわしてクッション性がいいのですが、テニスコートのそういったところの線量が高いということを過去に聞いていましたので、測ったところ橋の上は特に高い数値

ではありませんでしたが、大松側の小松果樹園の横、排水溝の近くが0.6マイクロシーベルトと高い線量でした。環境課は文科省が空から飛行機で測定しているので安全だと、復の方で高いところはあがるが大丈夫だということでしたが、自分なりに調べてみると、上空から調べてもホットスポットはわからないということです。これについては、毎時0.23マイクロシーベルト以下なら大丈夫だという国の基準があって、これ自体は同じ場所に8時間滞在するといった条件はあるのですが、それ以上のものがあるということは、ほこりやちり、ごみなど雨で流れて集積されて、線量が高くなっているのではないかと考えられるのですが、それがなぜ危ないかという、風で舞い上がって吸い込んだ時に、今度は内部被ばくにつながると。中国の大気汚染のPM2.5などがありますが、あれは吸い込んで肺機能が侵されるということです。北海道のがんセンターの医院長の講演をユーチューブで聞いたりしているのですが、その方の話だと、PM2.5に相当する、それより細かいものは肺に吸い込んで血管に入っていくと、心臓の血管を塞いだり、脳の血管に障害を起こしたりということで内部被ばくを起こす。それから、セシウムについては甲状腺に集まりやすいという話もあります。私は今年の7月にピースサイクルに参加したときに、公共施設は市でやっていますが、地域ではホットスポットがあるかもしれないので、市で全部調べる体制はないでしょうし、各自治会を通じて、「そういうホットスポットがあるかもしれないので、調べてみてはどうか」という注意喚起をしてはどうかという話をしました。環境課もピースサイクルに出席していましたので、会議の報告として上層部にも伝わっているのではないかと思います。ホットスポットの存在を周知して、各自治体にもう一度、自主調査を促してもらって、どうするか対応を考えてもらう方向で、呼びかけてもらいたいと思います。

大山口小学校区支部会

グランピアには若干高いところが確かにあったということで、この前市に指導していただいたところ、上の土を大体20センチぐらい取って、それを下と入れ替えるという程度のことで、一応このぐらいの高さであれば対応できるのではないかと思います。分かっている放置するのともうかと思えますので、これは自治会というよりも、自治会の有志でやろうということをやっていることなので、自治会有志でこの案件の結末までやろうと、たまたまそういうことがありましたので、他の方にも注意を喚起していただきたいということだと思えます。

市長

基本的には、市の除染計画に基づいて3年やって、ほぼ市全体で国の基準を下回ったと。確かに雨垂れが落ちるところやほこりなどが溜まったところなどで、ホットスポットがまだ一部あるところも事実ですので、大々的にもう一度やるかやらないかは別にして、市も公共施設等は道路も含めて調べていますので、その中でどこかに偏って高いところがあるのであれば、対応をもう一度検討します。今はそういう自治会でやっているところもありますので、そういう意見も聞きながら、もう少し検討しながら対処してもらいます。

大山口小学校区支部会

大松の道路の話がありましたが、西白井1丁目のメイン通りは、最近車の往来も激しくて、なかなか横断できないのです。何年か連続で、ちょうど吉田動物病院のところの交差点に押しボタンの信号をつけてくれないかとかと市長にもお願いしています。メインの通りに対して、横断する人、車の数が少ないから、警察から今はつけられないというお話があるのですが、やっぱりあんなに車も多くて、それもスピードをかなり出して来るので、渡ろうと思っても、なかなか大人でも渡りづらいときがあるので、子どもはもっと渡れないだろうと思います。もう一度その辺を検討していただければなと思うのですが、市長の手紙などでいつも出していますが、改めて出させてもらおうかなと思っています。

大山口小学校区支部会

住宅地があると、普通の国道でも速度を40キロ、50キロに落としていますね。確かに道路はいいだろうけれども、あの住環境からして60キロ制限、一方の市役所の前の通りは40キロ、あの片側2車線で、ほとんど人家がないのに40キロ。我々も車で走っていて60キロ制限だと、楽だなと走っていますが、60キロはちょっと危険な感じがします。

大山口小学校区支部会

今日も自治会の中でも話したのですが、脇から出るときも、あそこには出ずに、信号がある方にわざわざ回っていくのです。結構怖いので、子どもにしたらもっと怖いだろうなと思います。

市長

そういう道路も含めて、大きくは通学路の点検の中で出てくる問題がほとんどですので、それについては、市から県警を通して、公安委員会の方に要望していますが、一番難しいのは信号です。公安委員会で一番難しいのは信号、その次に速度制限と時間帯。やっぱり制限をかけること、信号は、先ほど大松の話でも出ましたが、信号から信号までが250メートル以内だと、基本的には信号をつけないというのが、公安委員会の決定事項です。ですから、そこはどうしても、踏み込めないのです。ですから、例えば、もっと遠くにずらすなど、そういうことは案としてはあるみたいです。

大山口小学校区支部会

いらないところに信号がついていて、250メートルの制限にかかってしまうということであれば、位置を変えてもらうのも手ということですね。

大山口小学校区支部会

信号の250メートルの件は、大松の交差点でも問題になっています。位置を変えるなど、何らかの方法で変えられるのであれば、いいと思います。ただし、その地域の住人全体の総体的な意思として

どこにあればいいのか、あの通り全体でどうあるべきか、を考えた方がいいと思います。

大山口小学校区支部会

最近、市内をぶらぶら散歩していると、特に若い外国の方が数名で移動しているのを、ここのあるときどき見かけるようになりまして、白井市もだんだん住宅も増えていて、グローバル化していますから、これからますます外国籍の方の入居が増えてくると思います。きちんとした届け出、それから当然入国の管理基準というものがあって、それに沿ったから住んでいると思うのですが、いわゆる入国管理基準というのは、いろいろ拡大解釈してやりますから、そのとおりに管理するというのは、なかなか難しいのですけれども、どう見ても「ああ、この人たちはここで働いているな」など見受けられる方もいます。確認したいのは、その入居された方の住居の管理にあたり、幸い大きな事件があったといったことは聞いていませんが、いろいろなことが全国的にも言われていますので、そういうところは、今後いかがなのか、心配も含めて感じています。そのあたりについてはどうでしょうか、かなり増えてきているという認識はお持ちですか。

市長

今、外国人で住民登録をしている人が800人ぐらいです。それが正確に全てを表しているかという、分からないと思うのですが、逆に言うと、登録している方は、ある意味住居がしっかりしているということだと思います。別の自治会で話をしていたら、外国の方、東南アジア系の方が5、6人一緒にいて、その方々は職業訓練ということで来ていると。アパートのきちりしたところに住んで、そこから自転車で職場まで行かれているという。それで、地域でも、自治会で一緒にお祭りをやるなど、なじんでいるということで、そのように地域になじんだ外国の方がほとんどだと思います。だからそれ以外の方はというのは、なかなかこちらでも把握する手段がありません。

市民経済部長

全てではありませんが、警察で定期的に怪しいというのか、ちょっと危険なところについては、見回りをしていると聞いていますが、どれが危険かという判断が難しいところもあります。一応見回りをしているという話は聞いてはいます。

市長

市では、外国の方と市民がコミュニケーションをとれるように、年に何回か国際交流協会が中心になって、サッカーをやるなどいろいろなイベントをやっています。全員ではありませんが、そういうように少しずつ外国の方と市民の方の交流を増やしていったら、コミュニケーションをとれば、市民として一緒に暮らせますので。

大山口小学校区支部会

それからもう1点、ちょっと突拍子もない話かもしれませんが、先ほど防災関係の資料もいただきましたが、白井市のホームページは大変見やすく、隣の鎌ヶ谷市と比較すると、白井市の方がすごく分かりやすいと感じています。その中の一端として、今通っている病院のほかにも病院はないのかと思って見ていると、これは白井市の住居表示の問題なのですが、白井市の根という表示があります。例えば、根76は、どの辺かわかりますか。ここは、木下街道と16号線が交差するあたり、タイヨーというスーパーの向こうあたりにある「ちよだクリニック」というところの住所です。それから、家の一番近くでいうと、「菊地医院」があるのですが、グランピアの裏側、西白井駅前の京葉銀行から16号線に200メートルぐらい行ったところにある病院です。ここが根1720という表記です。あと、根325は、北総白井医院というところで、白井第三小学校の近くです。市役所の皆さんは、日ごろからいろいろ携わっていますから、分かると思いますが、この根の何番地という表記は、新しい入居者、例えば我々は大山口2丁目で、先ほどから話があるように西白井の1丁目、2丁目等々といえば大体あの辺の場所だなとわかります。だから、池の上という、病院としては遠いからだめだなとすぐ分かるのですが、この「根」という表示は、これは古来からですからなかなか変えられないのでしょうけれども、一般の住民からすると、ちょっとわかりづらいというところがあります。16号線の方で、今住宅がたくさん出来ていますから、これから入居者がどんどん増えてくると思うので、こういう住居表示の件も、ぱっと見てあの辺だというように、例えば地域名でいうと、折立、神々廻……といういろいろその地域の呼び方がたくさんあるようなので、何かそういうものを使ったような、「あ、あそこだな」とわかるような表示を検討されたらどうかと。余計なことですが、私はそう感じましたので。

新しい地域はきちんとわかりやすくなっていて、もともとあったところは元の住居表示になっているようです。

市長

旧第一小学校区、ざっくり言うと、16号から北、南側というのが、根と木と復なのです。そこに家が出来てきて、その地域を住居表示して、一部飛んでしまったと。我々は、地区名で、例えば根の中でも白井、白井木戸、白井新田、風間、中木戸というように、大字名ではなくて、地区名で分類をしていました。多分、新しく入居された方は、その地区名がわからないので、確かに、別のところでもそういう話を聞いたことがあるのです。「根」というのがよく分からないと。富士の北総白井病院から16号を超えた旧役場まであるわけなので。ちょっとそれは考えてみます。一時、木下街道のように、通り名に一つずつ名前をつけて、その通りの、例えば北側、南側、西側といった案も出たことがあるのですが、それも途中で頓挫してしまいました。でも、そういう要望が他にもありますので、いい案があるか、考えさせてください。

大山口小学校区支部会

それと別に、一つの自治会で、三つの小学校に通っているのが2自治会あります。白井木戸と中木戸自治会、この二つの自治会は、三つの小学校に通っている児童がいるのです。大変ですよ、運動会なんか。そういう面で、少しずつ変化しているというところでしょう。

大山口小学校区支部会

二点あるのですが、一つは教育に関する事で、もう一つは防災です。防災に関しては、何か配られたので、後でお話があれば、そのときにまとめてもいいです。

私の娘が中学生ですが、事実を申しますと、統一テストというのを県でやっているのですが、平均点が県の平均より大体1教科当たり5点から10点低い。トータルだと50点ぐらい低い。県の平均より低いというのは、これはもう問題ではないかと。もうちょっと何かいい方法があつて、全体的にレベルを上げることを考えていかなければいけないのではないかとというのが、正直な印象です。それと、相関関係があるかどうか分かりませんが、エアコンが、市川などは設置されていますが、まだ設置されていないと聞いています。当然予算の関係があつて、非常に厳しいとは思いますが、成績が県の平均よりも5教科で50点ぐらい低いというのは、将来的なことを考えたら、余りいいことではないと思うので、何か教育環境を向上するようなものを施策として考えていかなければいけないのではないかと思います。

教師も、そんな暑い真夏の中で、教室に行く足が遠のいてしまう部分があるのではないかと思います。温暖化もどんどん進んでいますので、そういうことを踏まえて、市としてエアコン設置に関しては、これはやらないと決めたのか、何かお考えがあるのか伺えればと思います。

市長

エアコンを設置する方針は持っています。ただし、今、学校の耐震改修が終わりました。今度、老朽化対策がありますので、エアコンも教育環境の大きな一つではあるのですが、例えばトイレの改修、今のお子さんは、和式ではほとんどできないので、洋式に替えたり、トイレに行きやすくしたり、あと壁などの老朽化対策、体育館は避難所になりますから、その耐震化など、そういったところを優先的にやっています、それが全て終わってからということで考えていますので、そんなに遠くない時期に、あとは予算と重点施策との関係なので、やるということでは考えています。

【進行】：会長

教育委員会で、9月に急に教育長が替わりました。広報を見て初めて知りましたが、何かありましたか。今度の新教育長が白井中学校の現役の校長先生で、急に替わってびっくりしていませんか。

市長

特に何もありません。教育長はもう11年と半年の3期やりまして、今まで歴代の教育長は、大体2期から3期くらいで、本人ももう3期やったということで、自分のやるべきことをやっただけです。前の教育長の米山さんは、行政出身で教育環境や耐震などに力を入れて、今度は先ほど出た学力の向上など、教育環境も含めて、そういうところに力を入れるようにということで、現職の校長先生で力のある先生です。任期が来たから替わったということです。

PTAの方には、議会の承認を得る人事ですから、議会の承認を得られないと、どうしようもなくなってしまいますので、前もってなかなかお知らせすることはできません。決まった段階で、その日のお知らせをしました。人事なので、それは慎重にやらなければいけないのです。任命権者は私です。前教育長さんとこれからどうするかを含めて、誰が一番教育長にふさわしいか、ずっと考えていくと、これから学力向上というのは、市の大きな課題でもあるので、そういうことだと井上先生が、この白井市、地域の中では一番ふさわしいということですので、市長もそうですが、任期のあることですから、任期ごとに次の人を考えるということです。

市民

今、学校は遊び場として開放されていきましたか。保護者同伴でないとだめでしたか。

大山口小学校区支部会

その件もいろいろあるのです。例えば、学校開放を別にしても、市が持っている公園、児童公園をもっと開放したらどうか。遊具を置くのではなくて、芝生にして、何でもできるというようにすればどうかと。そういう公園と、小さくて遊具しか置けないという公園だったら、それでもいいのです。新聞なんかで見ても、そういう開放に向かっているところは、結構多いです。だから、中木戸公園を開放するという事は、最初教育長と話して、自治会で受けようと思っていたけれども、私の考え方で違って、前の教育長に早目にやってくれとお願いした都合もありまして、なかなか難しいところがあるけれども、ただこの周りの若い保護者の方からいろいろ意見が来るのは、3年生、4年生以上の生徒がキャッチボールする場所もない、サッカーをやる場所もないというところで、ほとんどの学校の校庭は、土日はクラブ活動もそうだし、同好会的なグループで使っています。だから、なかなか遊べないのではないかなと思っています。ここでいうと、大山口の児童公園、あそこはフェンスをつければ、あの中で遊ぶことができるだろうと。遊具は、私どもの団地なんかで置いてくれば、そういうことも可能かなと思っています。避難場所としても対応できるわけです。そういう点で少し方向性を出していただけたらいいかなと思っています。

市民

中木戸公園は、9月から毎週月曜日、3時から開放になりましたが、3時から5時ということで、3

時に帰ってくる小学生は、3年生以下ぐらいです。上級生は家に帰ってくると、公園に行く時間がな
いのです。ちょっと時間が短いので、やっているというので見に行ってみると、4、5人が来ているだ
けで、余り活用されていないです。

大山口小学校区支部会

そういういろいろなことがあるので、市の方向性としてどう考えていくのか、お聞かせ願いたい。

市長

私は、毎年市内すべての小学校6年と中学校3年に社会科特別授業をやっている、小学校の授業を
終わってから、意見交換などやっているのですが、大体ボール遊びのできる公園が欲しいと。私も作
りたいのです。そこには管理の問題があって、全ての地域、市民の人が思ってくれて、子ども達がボ
ールで遊んでいるから外で見守るようになってくれればいいのですが、やはり事故が、実際今まで起
きていて、つい最近だと、学校でボール遊びをしていて、ボールが道に出てしまって、そこにちょう
どバイクが来て、倒れて亡くなってしまったと。その学校とボール遊びをした親に損害賠償の判決が
出ました。公園でもボールがぶつかってけがをしている。だから、そういったこととのせめぎ合いに
なってしまいます。中木戸公園は、おっしゃったように、地域の方々がある時間帯を決めて、見守
ってくれるから、そこは安全だということがある。今やろうとしているのは、そういうことを広げて
いくしかないのかなと思います。大人の目が届くところで安心して遊べる。本当は、部活のように、
空き地や放課後に学校のグラウンドなどでやればいいのですが、今は安全管理が厳しいので、ほと
んどの公立公園はボール遊びが禁止なのです。船橋市がここで始めたのは、白井と同じやり方です。
あれが一番いいやり方だと思うのです。

大山口小学校区支部会

ただ、船橋もそうですが、自治体としてはやりかけているところが出てきました。市民に自助とい
うのであれば、子ども達も自分の身は自分で守ることができなければいけない。今度、大山口
中学校で23日に、家族対象で交通安全運動としてスタントマンを使ってやるイベントがあります。そ
ういうことを実際に体験しないと、痛さはわからない、今の子どもは、絶対的に弱くなっていると思
う、守られるから。これが僕は大人になったときにどうなるのかなと不安になります。そうではなく
て、自分の身は自分で守るということを徹底していけば、もっといいと思う。野球をやっている、そ
れは危ないですよ。だから、何をやっても危ない世の中ですから、逆に言ったら自分の身は自分
で守らないとだめですよということがベースに絶対になるべきだと思っていますが、どうですか。

市長

まさしくそうだと思います。ただ、例えば公園や学校の中だと、今は必ず市に管理責任が出てきま

す。そうすると、管理責任を負うところは、なるべく事故を起こさないような管理体制に入っていくてしまいます。だから、市民との信頼関係、子どもとの信頼関係、地域との信頼関係などがあって、我々の小さい頃、50年ぐらい前は、おっしゃるとおり、ガラスを割れば「こら」と怒られて、けがをしたら自分のせい、けがをしたとしても、多分人が死んでしまったという事故まで発展しなかったと思うのです。今は、例えば中学校のグラウンドで、放課後の部活の最中でも、ボールが校外に飛んで、車に当たって事故を起こしたといった昔では想定できないような結構大きな事故も起きているので、本当は私も自由に遊ばせたい。そうするにしても、今のある秩序を守っていかなければいけないので、ある程度の規制はしようがない。

大山口小学校区支部会

ただ、今の秩序というのは、今までの保護者が作り上げてきたものです。だから、これをみんなで考え方を改めましょうということはできないものかと思っています。私は、この間、中学校の合唱コンクールを見て、感動しているのです。小学校に入って、中学生になった9年間の授業で、あれだけのコンクールで歌が歌える、僕らにはわからない。そういう教え方が出来るのであれば、もっと交通安全やあるいは防災の問題、環境の問題ということを授業として、というとまた先ほど教育が落ちているという話があったけれども、世の中に出たときに、そういう生活するベースになるところができていないのではないかなと。今の40代から20代前半、その間が我々の責任だったと思うので、反省をしながら話しているのだけれども、市長がやられている社会科特別授業を教えることもそうだし、それを地域の人間に担ってもらおうということも大事なことだろうと思います。

市長

今日のミニ懇談会の一番大きな課題が、今の話だと思っております。先ほど冒頭ご挨拶で申し上げたのは、今は10年、20年前と違って、社会がだんだん変化して、いろいろな多種多様なニーズが出てきていると。それから高齢化も進んでいる、少子化も進んでいる、人口減がやってくる。そういうところで、今のボール遊びもそうですけれども、もっと昔は、自助、自分たちで道路整備したり、舗装ではなく砂利道ですから、砂利をならしたり、草刈りをやったりした時代があって、ある程度高度成長があって、予算が確保できるようになってから、整備されてきた。また、自治会、住民自治というのは、だんだん戻ってきているような気がします。その中で、今、白井市が進めているのは、小学校区ごとの協議会、まちづくり協議会の設置を今進めているのです。例えば、この地域はそういう問題がある、旧在来地区、第一小学校区、第二小学校区は、また別の問題があるのです。ニュータウンのように、インフラの整備がされていない、遅れているところもある、もう子ども達がほとんどいないところもあるということで、地域ごとに問題と課題が違って、その地域ごとに、その小学校単位でまとまって、その地域ごとに、地域で課題を解決していこうと。行政はサポートに回っていこうというまちづくりをしようとしています。具体的には、今までは富士センターは直営で、一部委託をして

きましたが、来年の4月からは、地域の方々がNPO法人の資格をとって、自分たちで管理を始めます。その中で、さっき言ったような第三小学校区単位のまちづくり協議会の設置に向けて、準備をいただいています。また同じく第二小学校区の公民センターでは、今まで民間の業者が指定管理で管理していましたが、そこは直営に戻して、職員が地域に出向いて、協議会をやっていただけるような人を見つけて、まちづくり協議会の礎というのか、もとをつくろうということで始めて、それをこれから各地区に広げていければなということで、やはり地域の方が主体となって、いわゆる協働です。一緒に協働でできれば、いい方向に行くのではないかと。

大山口小学校区支部会

市がこういうことをやりたいということで、10年の計画を出しました。あの中で、「協働」ということを言っているのではないですか。では、「協働」とは何たることだということで、市のほうも協働に対して今までやっていることを変えないといけません。市民に協働してくれということばかりではなくて、行政も、それに対応できる力をつけてほしいと思う。せっかくやる気になっている人たちを無下にするわけにはいかないわけです。まちづくり協議会は、これから私もつくっていきたく思います。ですが、これはよっぽど市と話し合いをしないと無理だと思っています。

その前に、防災について、地域防災計画の中のことを10月30日に、この地区で防災訓練をやりました。その中で、一つ一つ市が作っているマニュアルどおりにやっていこうということで、避難所運営訓練をやったわけです。それで、例えば市民が避難してきたときに、その避難所が使えるかどうかから始まって、順番にマニュアルを作りながらやっていっているのです。今回、市に報告、連絡をするということで、PHSを使ってやれば出来るということなので、PHSの連絡を地区社協の担当がやったわけです。連絡は取れたけれども、例えば、僕はPHSに案内を出して欲しい。実際に番号を書類で探すといっても、現実にはそんな緊急時には無理だと思う。例えば、電話を使うときに案内表示が出るように、何か仕掛けて欲しい。それを言われて、なるほどと。そういうことを一つずつ潰していったわけですが、コピーした番号を見てくださいということなので、これはちょっと間に合わない。今度、市民安全課に言おうと思っているけれども、現実にはそういうこともあるわけです。市民の参加も少なかったです。268人で、こんなに少ないです。あまり関心がないから、何かあったときは、皆さん自分でなんとかするのだろうと、自助は浸透していると。

大山口小学校区支部会

今の件に絡めて、9月1日読売新聞に、千葉県が調べた避難所マニュアルは、市町村の7割で作成中だと。白井市は作成済みなのか、作成中なのか、未作成なのか。今日、避難所マニュアルをいただきましたが、「What」は書いてあるけれども、「How to」が書いていない。「How to」がないと、何をすべきかと言われても、どうしたらいいかわからない。これは避難所運営マニュアルを作成している市町村が約7割ということになっているのですが、白井市はどっちに入っているの

しょうか。もしあるならば、この前の避難所運営訓練を、そういうマニュアルをベースにして、1回に全てはやれないけれども、今回はこの部分、この部分という形で進めた方が、本当に災害があったときに、より役に立つ。大まかに書いてあっても、どうしたらいいのかという話があるので、まずこの調査で白井市はどの回答に入っているのかを教えてください。

市民経済部長

マニュアルについては、実は28年4月に、国から避難所運営ガイドラインが出ました。この関係もあって、恐らく新聞社の方で、具体的にどの程度策定済みなのかということ調べたものだと思います。白井市では、国の示したガイドラインの内容を見ましたが、あらかじめ作成して皆さんにもお配りした自治会対応のマニュアルの中で、国の方で示された部分が載っている部分も載っていない部分もありましたが、十分今の段階でご活用いただける内容でしたので、活用していただきたいと考えているところです。ですから、どちらの段階かといえば、一応作成してありますが、国が示したマニュアルの全てが載っているわけではありません。

大山口小学校区支部会

これには「How to」が載っていない。「What」しかない。「What」はマニュアルとは言わないです。単なる目次ですから、いわゆるマニュアルといわれるものがあるのかどうかということです。これは決してマニュアルでないと思う。

市民経済部長

印旛郡市内では、四街道市で作ってしまっていて、以前に内容を見せてもらいましたが、基本的には白井市のマニュアルとほぼ内容は同じでした。ただし、四街道市のマニュアルではより詳細な解説がありましたので、大まかには現在のマニュアルでも通用しますが、国の基準がこの4月に示された関係がありますので、これに沿って、実際に避難所運営する際に、このマニュアルを拡充したうえで、これから作っていきたいと思います。

大山口小学校区支部会

実際に、それを実践してやっているわけです。自治会の進行で、防災担当者がきて、話し合いをして、順次加えていこうと考えたわけです。避難所運営マニュアルもそうだし、先ほどのこともそうだし、一つ一つ実際にやってみよう。それで、地区ごとに違うと思う。在来地区と我々の地区ではやっぱり違うので、やり方を変えないといけないと思うわけです。だから、全部一緒につくるのではなく、それは大山口小学校区で変化させていった方がいいだろうと思います。

大山口小学校区支部会

ベースがあって変化させるのはいいけれども、これはベースにはならない。だから、何かあったときに、5年か10年かはわかりませんが、そのときにその場にいた人が、ある種の手順に従ってやっていくというものが重要だと。この記事は、たまたま熊本地震のときに、支援物資仕分け人材不足、南阿蘇村では避難所運営マニュアルがなく…と書いてある。だから、やっぱり実際に災害が起こったときに、何をやるべきかを出されても、それでは動きませんよ。それこそこういうマニュアルでは、全部が全部やるのは大変です。一応、ここに「What」は定義されていますから、それをもとに優先度の高い項目から、「How to」を入れたベースを作って、あとは地区ごとの事情もあるでしょうから、それはその中でプラス・マイナスしていけばいい話です。

大山口小学校区支部会

ただ、市でやっている防災訓練は、自衛隊が来たり消防も来たりして、何かいろいろやっていると思っていて、格好よく見えるけれども、実際に本当に動けるのかなという気がしているわけです。役所は絶対3日間は動けないだろう、担当者が被害を受けているから動けないだろうという想定でやっていますから、だから我々で、自助でやるしかないと思って、この間の小学校区での防災訓練はやったわけです。そういう意味で、ちょっと市の防災訓練がどうなのかという気がしている。確かに、消防署を使ったり、救急の人たちを呼んだり、自衛隊を呼んだりということはすごいです。でも、実際に自分たちで出来ないともならないと思っているので、そういう面では、新しい役所ができたときには、市役所でやると考えて、各小学校区で持ち回ってやるということはもうないだろうと思います。

市民経済部長

確かに、これまでは小学校ごとに持ち回りでやっていました。実は市長からも、やり方について再考しようという指示がありまして、まだ予定ですけども、来年は市役所隣の総合公園を使って、これまでとは違った視点から、内容は今検討中ですけども、防災訓練を実施する予定をしているところです。

大山口小学校区支部会

僕が思っているのは、最近の国土地理院の公告や内閣の防災の方でも、もう国としては災害の対応が厳しいという見解を出してきました。災対法34条、35条で皆さんも動かざるを得ない部分もあると思うのですが、実際は国自体が無理だというようなことを言っていて、先ほど話があったように、地域単位で、自助努力でやる、特に初期の段階は厳しいだろうと。それが1週間になるのか、1カ月になるかということもあるのですが、そういうことを考えたときにお伺いしたいのは、そういうことを踏まえて、市役所は今白井市の現状として実際どうなのか。私ども1丁目としても、特に年齢層が高い方は、市が何とかしてくれるだろうという方が結構いらっしゃるのです。それに関して、市とし

てはどう回答するのか。「市がある程度やるから1週間ぐらい備蓄しておけばいい」ということなのか、それとも「真剣に本当に備えてください」というスタンスなのか、その辺をお伺いできればと思います。

市長

やはり基本は自助だと思います。今までは、3日間の水、食糧でしたが、この前の防災訓練のときは1週間分を用意したのですが、相当な量になるのですね。食事は1日3回で1週間だと21回になりますから、かなりの量です。一般家庭でどのくらい備蓄できるかというのは、その家庭によって違うのでしようけれども、市で考えますと、何日かの食糧については自助していただいて、その間に公助をするのですが、そのために今やっていることは、まずコンビニなどいろいろな業者と提携を結んでいます。そして、3年ぐらい前に遠方との災害協定ということで、今、福島県の伊達市と災害協定を結んでいます。これからは、できれば西方面など離れたところと結んでいきたいと思っています。もう一つは、県が中心になって、広域で結んでいるものもあります。例えば、災害の規模にもよると思うのですが、白井市を含めた数市の災害規模であれば、恐らく対応できます。それが、千葉県や関東クラスの災害になると、これはかなり対応が厳しくなる。そのときは、この辺りの地域では自衛隊の下総基地が輸送基地の拠点になるのですが、そこまでになるとかなり時間がかかるので、自助がかなり必要になってくるということです。これから白井市では、地震でいえば震度6強を想定しています。そのときにどのくらいの公助と自助が必要かというのは、書いてあるとおりですが、それを超えたときはかなり厳しいと。これが食糧などを含めたお話です。問題は、高齢化などがどんどん進んだときに、高齢者や体が不自由な方、病気の方、乳幼児の方、妊産婦の方など、いわゆる災害弱者の方をどうやって支援するか、ということも大きな問題なので、そのときには、市役所の両脇に病院と老人保健施設、特養施設ができましたので、そこも協定を結んで、優先的に災害弱者の方も収容できるように進めています。それを全て市が出来るかという、到底できないと思うのです。6万3,000人の市民を、市が先頭になって全て出来るかという、これは出来るものではないので、この地域ごと、一番いいのは小学校単位です。各小学校では非常用井戸も掘って完成しています。ですから、水の確保はこれで出来ていますので、水が確保できればかなりの時間が稼げるので、小学校を中心とした小学校区単位で地域の方々が、災害も含めてコミュニティ作りをもっと強くしていただければ、災害、防犯、防災、地域づくりも、大きく強くなっていくと思いますので、小学校単位のまちづくり協議会が、これから重要なことになってくるだろうと。

先ほど、自助、共助という話がありましたが、簡単に言うと、サークルや地区の仲間内の活動が防犯、防災など大きくなって、市でも似たようなことをだんだんやってきて、そうするとそれぞれの円が重なってくるのです。それでお互いにどんどんいろいろな活動をして、重なってきたところが、協働なのです。市も市民も団体も、自分たちでそれぞれの使命を持って活動していくと、防犯や防災などは重なってくるのです。ここがお互いに協働できるでしょうと。お互いのできることをやって、協

働いていきたいと思いますというのが、白井市の協働の考え方です。ですから、お互いに一方的という話ではなくて、お互いにできるところは一緒にやってみよう。そのかわり、各々の独自の活動は、独自で活動してくださいということなので、今話しやすいのは、防犯、防災、子ども、安心・安全です。簡単に言うと、そこは協働していこうという概念なのです。

大山口小学校区支部会

概念は良く分かるのですが、今自治会の役員で何が悩みかという、自治会の運営というのは、平等に役割を回そうというところがありまして、グランピアだと1年だけで交代をしてしまうのです。ところが、お話があったように考えていかなければいけない問題ということは分かるのですが、1年で代わりとなると、今でもやり切れないと思っていますが、次につないでもまた同じことを繰り返すという、これをどうしたらいいのだろうかという悩みがあります。我々もサークル活動をやっていますから、そこでNPOでも立ち上げて、防災なら防災の担当をずっとやっていくようなものを皆でつくらないかということで、この前飲みながら話をしたら、いろいろ家庭の事情があって、「今日一杯でやっているのに、とてもそんなことはできない」という意見もあって、何かそういう私的な部分について、市が支援するというのはおかしいですが、何かそういうものを活動拠点として拡大するというのをやらないと、今でも自治会のルールを変えれば出来ませんが、恐らく変えても2年も3年もやるということには反対が出ると思うのです。ですから、概念はわかるのですが、実際やるとすると、かなり難しい問題があるということもまた事実です。これをどうするかということが悩みです。

市長

参考になるかどうか分かりませんが、例えばある地区では、自治会という一つの自治組織の他に、いろいろな担当があります。例えば、神社の担当、それ以外の防犯、PTA、地区社会福祉協議会などがあって、自治会長は大体どこでも1年か2年です。その中で、例えば組織としては、PTAや地区社会福祉協議会は、大体同じ人が長くやっているところがある。それから、自治会でも工夫によって、防犯や防災担当などで3年など、少し長い時間できるようなことをやっているところもあります。

大山口小学校区支部会

この前、講演会でもそういうものがありましたが、恐らく大きな自治会ですと、「希望者が手を挙げて」といえば、ある程度の人が集まってそういう組織ができると思うのです。ただ、私の自治会は220戸です。希望者を募っても、恐らく誰も手を挙げないということが分かり切っています。だから、実際はなかなか難しい、悩み事です。

大山口小学校区支部会

ただ、私は、市が水の確保などをやってくれたので、自治会でできることは、皆さんに最低限3日から5日、あるいは1週間という米を持って欲しいと思っています。前から言っていますが、5キロから10キロの米は最低限持っておいてください。そうしたら炊き出しをやろうと。それで炊き出しの道具は、それぞれの自治会の所帯に応じたものを皆さんが持ってくださいと思うわけです。米などは、もう自助の問題。自分たちで、何かあったときには自助すると。当然、インフラとして、

電気が通らないということになると、冷蔵庫の中身はダメになりますから、冷蔵庫のものはみんなで供出しましょうと。もう一つは、普段から、農家と付き合いましょうと。電話をすれば対応してくれるかなという農家が、私も何名かいますけれども、そういうことをやっていけば、水は市が確保してくれたから、あとは電気。電気は私も持っていますが、カセットボンベの発電機を防災倉庫の中に2個ずつ入っています。そういうものを使って電気を起こすことは、カセットボンベだけを替えれば多少できる。だから、やっぱり工夫して何か出来るのか考えて、一つ一つ防災の課題も潰していったとしても、市がその辺の方向性を出してくれるとうれしいなど。アルファ米を持っていますが、あれは持つ必要はないと思う。今のアルファ米はおいすぎる。この間、防災訓練にきた皆さんにも配りましたが、私なんかおいしくて、よだれが落ちるぐらいの感じ。だから、一つの考え方として、やっていけばお互いのところで協力し合えるのではないかと。使わなくていいものにお金を出さなくてもいいのではないかと。我々は自分が生きるために、何をどうするかということを考えて、それとの兼ね合いではないかと思うのです。私の自治会では全て5キロの米を持つということで、指示を出しています。炊き出しの道具は2,000人ぐらいの人数の分はお鍋など全部合わせるとあります。団地が全部潰れると困るけれども、そういった面でどうすればいいのかということ、お互いが腹を割って話し合うことではないかと思っている。ただ、僕はいろいろな状況があって変わるだろうから、やっぱり戸建てが一番困るだろうと思う。それをどうするのか、戸建ての人たちは戸建ての人たちで考えていないといけなだろうと思う。団地は団地でどうするかを考えていますので。

大山口小学校区支部会

自分のところでは、電気は自動車からのインバーターで、13,000円で1キロの電気が出るようにバッテリーがあるので、車がある家は発電機がなくてもすぐに電気がつく。井戸もあって、水もあります。

大山口小学校区支部会

井戸も、油がなくなってしまうと終わりです。3日もたないですよ、多分。

大山口小学校区支部会

だから、必要なときだけつけばいい。

大山口小学校区支部会

この前、市役所の方に聞いたところ、井戸も燃料満タンで連続運転すると8時間ぐらいしかもたないということでした。あとは、油をタンクにとっておくのかどうか。ガソリンスタンドと契約するというような話も聞いていますが。

市長

東日本大震災のときもそうでした。ガソリンなど油関係が輸送されなくて、本当に困りました。あと、電池ですね。だから、今から思えばあれはすごくいい経験で、最近電池も長い期間備蓄できるようになったので、入れ替えは必要ですが、あとは油関係をどう確保するかです。油というのは、法律で規制がありますので、そこはなかなかいい案がないのです。発電所は、発電機を持っているのですが、それでどのくらいもつかです。

【進行】：会長

カセットボンベの発電機は、夏祭りなどでいろいろ使っています。使ってみてあれは非常にいいと思う。あのボンベを幾つ備蓄するかということです。だから、お互いにそういう話をざくばらんにして、批判し合うのではなくて、お互いにみんなが生きるためにどうしたらいいかという考えでいけばいいのではないかと考えています。いい方向で皆さんがこれから生き長らえることを祈念して、終わりたいと思います。

市長

本当に、今日一番の成果だったと思います。まさしくある意味協働です。ありがとうございます。今日いただいた意見は、通学路の問題など必ず皆さんの意見は検討して、どうしたいか、どうするかという答えを出します。出来ないものは出来ない、出来るものは出来るということでやりますので、ぜひ後ほど回答させていただきます。

—以 上—